Vol.40　チャーチ・モードの各スケールを覚える　～その 2～

『10 分トレ』vol.40、始めていきましょう。

引き続き、C アイオニアン(メジャー)スケールについて学んでいきます。

前回は、左手のストレッチの無いポジションを弾きましたが、今回は 3 ノート・パー・ストリングスケールで見ていきます。よって、多少のストレッチが加わりますね。

それでは、ポジションは以下になります。

図 1、C アイオニアンスケール、6 弦トニック(3 ノート・パー・ストリングスケール)

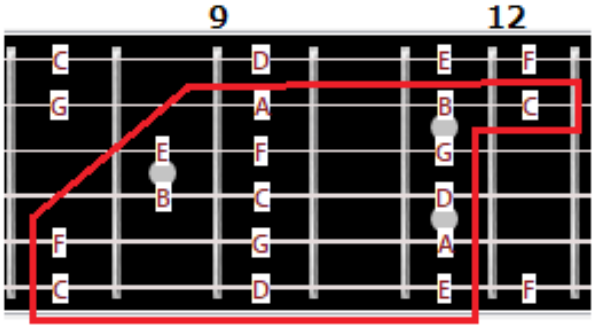
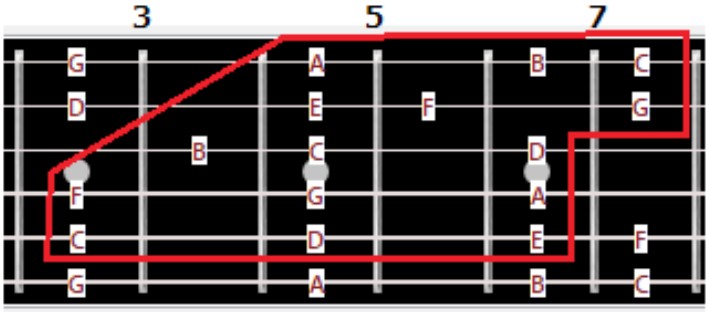


図 2、C アイオニアンスケール、5 弦トニック(3 ノート・パー・ストリングスケール)



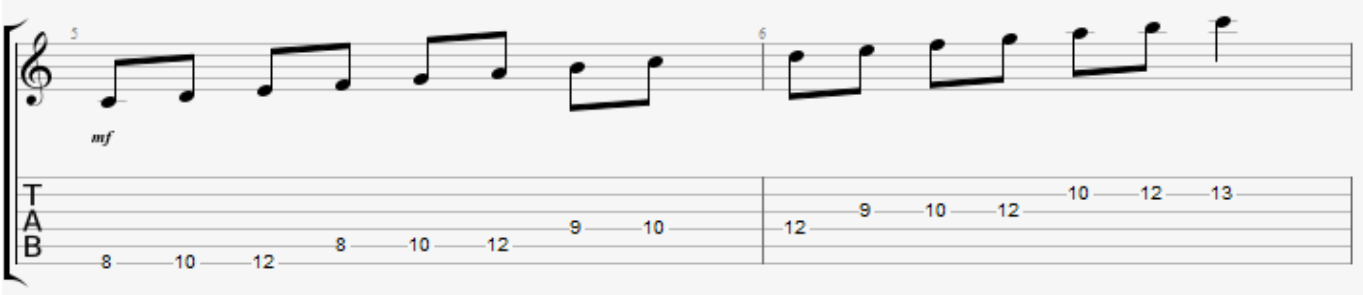
5 弦トニックの方は、1 弦の最後の音がトニックの C 音で分かりやすいですが、6 弦トニックの方は、1 弦まで進むと F 音まで行ってしまうので、アイオニアンの響きがわかりにくくなります。

最終的には 6 弦トニックの方も 1 弦まで弾ききれる様にもしますが、最初は 2 弦の C 音で止めておくと、スケールの感覚が掴みやすくなるでしょう。

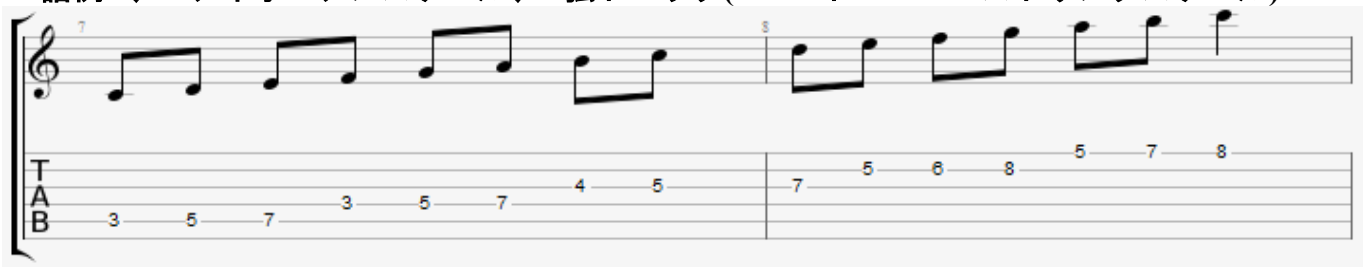
それでは、譜例は以下になります。と言ってもストレートに弾くだけですが。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

譜例 1、C アイオニアンスケール、6 弦トニック(3 ノート・パー・ストリングスケール)



譜例 2、C アイオニアンスケール、5 弦トニック(3 ノート・パー・ストリングスケール)



譜例が無駄に長くなってしまうので、上行のみにしてあります。実際の練習では下降も行ってください。

後は、両者とも、2、3 弦間のチューニングでフレットがズレるだけで、元々の音の配置(インターバル的な距離、視覚的な形)は同じである、と言う事も把握しておきましょう。

それでは、内容としてはシンプルになりましたが、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved